

掘りday  はちのへ
—八戸市埋蔵文化財ニュース 第6号—



古墳時代中期の土坑墓発見

八戸市東部の市子林遺跡から、約 1,600 ～ 1,500 年前の土坑墓 4 基がみつかりました。墓は、楕円形でそれぞれ東壁に小穴が掘り込まれています。墓から続縄文土器、土師器、鉄鏃、玉類が出土しました。玉は、石製の白玉・菅玉、ガラス玉、琥珀玉です。八戸地方の古墳時代の墓制を考える上でも貴重な発見となりました。 (大野 亨)

是川中居遺跡

—樹皮製の漆器が多数出土—

是川中居遺跡は昨年度までの調査により南と北の二本の沢が流れていたことが分かっています。この沢には約 3,000 年前（縄文時代晩期前葉）を中心に様々な道具やゴミが捨てられました。湿地であったため泥炭層が形成され、これらの有機質の遺物が腐らずに発見されます。

今年度調査した H 区は南の沢の捨て場で、土器や石器とともに、籠や掘り棒、形が整えられた木材、赤い漆塗りの櫛や弓、腕輪のほか、樹皮（木の皮）で作られた容器の破片などが大量に出土しました。特に、大型の漆塗り樹皮製容器は赤に黒が重ね塗りしてあり、端には等間隔で穴が開けられ、その穴から放射状に 3 本の糸が伸びています。全体の形は不明ですが、このような繊細なつくりの樹皮製漆器は例がなく、縄文人のこだわりが強く感じられます。この樹皮製漆器は、乾燥すると壊れてしまうので、専門業者に委託して保存処理を行う予定です。

このほかにも、建物の一部だったのでしょうか、先端が焦げ先細った形の長さ 4.2 m の木柱や、たくさんの丸木で組まれた壁財と思われるものがみつかりました。

（小久保 拓也）



縄文時代晩期のような。
北の沢と南の沢を中心に捨て場があります。



写真中央南の沢が東西に流れ、泥炭層が堆積しています。地表から沢底までは 3.7m ほどあります。



大型の漆塗り樹皮製容器。長さ 40 cm × 幅 30 cm。
すぐそばから赤漆塗りの櫛も出土しました。



長さ 4.2m の大型木柱と放射状に組まれた壁財。木柱の先端は焦げて細くなっていました。

うしがさわ 牛ヶ沢 (4) 遺跡

—縄文時代から平安時代に至る山里のムラ—



上：縄文時代の土器
各土坑から発見された縄文土器。

牛ヶ沢 (4) 遺跡は八戸市の南端、階上町と接する標高 50 ～ 100m の丘陵に位置します。

発掘調査は平成 8 年度から平成 14 年度までの期間行われました。

調査の結果、縄文時代 (早・前・中・後期)・弥生時代 (前期)・奈良時代 (8 世紀後半)・平安時代 (9 世紀後半～ 10 世紀初め) の各時代にわたる集落跡が発見されました。

縄文時代から奈良時代までは数件の小さなムラでしたが、平安時代になると 10 軒前後の大きなムラが営まれるようになります。平安時代には小鍛冶が行われており、鉄製の農・工具類の自給自足が可能な山里のムラでした。

写真 (左・下) の土器は今年度の調査で発見されたものです。左の写真は縄文時代中期の土器で、左側の土器が本遺跡出土土器のなかで最大を誇り、高さ 68 cm、重量 12 kg です。

下の写真は平安時代の火災で焼け落ちた住居跡から発見された土器です。不意の火事で、家財道具を取り出す間もなく崩れ落ちてそのまま廃棄されたもので、当時の生活道具の内容が分かる好例です。

(小笠原 善範)



右：平安時代の土器
ひとつの住居跡から
らまとめて発見され
た土師器・須恵器。

たむかい 田向遺跡 —縄文時代から近世まで—

田向遺跡では、田向土地区画整理事業に伴って発掘調査が行われ、約 37,000 m²の範囲から縄文時代早期、弥生時代後期、奈良・平安時代。中世、近世の集落がみつかりました。



遺跡は八戸市東部を流れる新田川の左岸、標高 10m ほどの台地に立地しています。

14 年度は遺跡の北端から中央部にかけてほぼ全面を発掘調査しました。



何回も建て替えられた近世の掘立柱建物。

発見された主な遺構には、竪穴住居が縄文時代早期のもの 10 軒、弥生時代 3 軒、奈良・平安時代 15 軒、中・近世 17 軒、中・近世の溝 61 条、中・近世の井戸 22 基、掘立柱建物跡の柱穴約 3800 個、縄文時代の溝状土坑 392 基、各時代の土坑 368 基などがあります。

(宇部 則保)



平安時代の竪穴住居から県内ではじめて出土した金銅製の壺鏡（馬具のひとつ。馬に乗る時、足を掛ける所・図の黒塗り部分）



平成 14 年度 八戸市遺跡調査報告会

平成 14 年 11 月 24 日 (日)、午後 1 時 30 分から、八戸市庁別館 2 階会議室を会場にして、平成 14 年度八戸市遺跡調査報告会が開催されました。

120 名を超える考古学・歴史ファンに参加いただき、盛況となりました。

報告会では、始めに、八戸市が行っている発掘調査について全体的な説明があったあと、今年度の主な発掘成果について、スライド映写をまじえて報告しました。

取上げた遺跡と報告者は次のとおりです。

- ①牛ヶ沢 (4) 遺跡 (縄文時代・弥生時代・奈良・平安時代)……小笠原善範
- ②田向遺跡 (縄文時代・弥生時代・奈良・平安時代・中・近世) ……宇部則保・小保内裕之
- ③市子林遺跡 (古墳時代・飛鳥時代・奈良・平安時代・中世)……大野亨
- ④是川中居遺跡 (縄文時代・弥生時代・古代・近世)……村木淳

会場内に、各遺跡の出土遺物を展示するコーナーを設置し、なまの遺物を見ていただきました。(渡 則子)



会場は参加者でいっぱいになりました



真剣な表情の参加者の皆さん



田向遺跡出土遺物展示



普段は見られない角度からも…

縄文時代草創期の土器

縄文時代の始まりは、一般に人間が土器を作り使用した時点からと考えられ、それ以前は旧石器時代と呼ばれています。

人類の火の使用は旧石器時代から確認されています。土の上でじかに火を焚くと、その部分が赤変して堅くなります。そこから土器作りのヒントを得たのかもしれませんが。土器を作るに際しても、粘土選び・形・焼成温度や時間などかなり試行錯誤したものと思われます。しかし、この土器を使用することにより、お湯を沸かし物の煮炊きや、水や物を運搬することなどができるようになります。また、加熱することにより、食糧を保存することができ、食の範囲が広がります。

縄文時代草創期は、概ね 13,000 年前から始まったと考えられています。しかし、今後の調査によっては、まだまだ遡るものと思われます。

草創期の土器は現在、出土層位や土器に付着した炭化物の年代測定により、大きく以下の 4 型式に分かれています。

1. 無文土器 文様を描いたりしない素焼きの土器です。形ははっきりとしませんが、鉢か深鉢形土器で底は平なようです。この土器は蟹田町大平山元 I 遺跡で出土し、日本でも最も古い土器に位置付けられています。しかし、出土品の多くは石器で、わずかに土器が出土する程度です。

2. 隆線文土器 土器の表面に極細の粘土紐を貼り付けた土器で、形は丸底風の尖底深鉢土器で底部には乳頭状の突起があります。この土器は六ヶ所村表館 (1) 遺跡で出土しています。

3. 爪形文土器 土器の表面に爪形の圧痕を施した土器で、形は砲弾形の尖底深鉢土器です。この土器は南郷村^{まきわだ}黄檗遺跡、八戸市鴨平 (2) 遺跡などで出土しています。

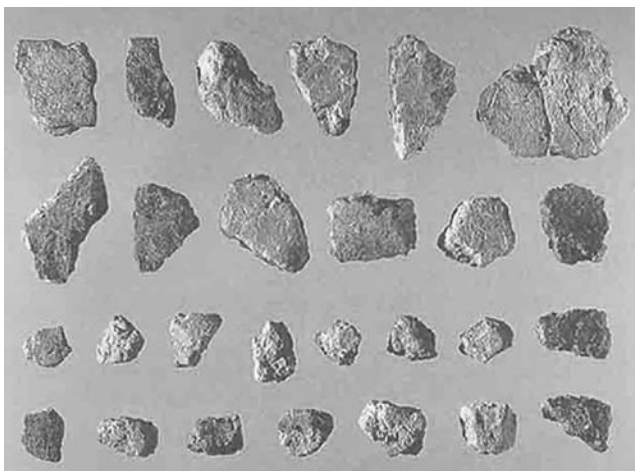
4. 多縄文系土器 縄の撚紐を転がしたり、押圧したりする土器で、形は屈曲をもつ平底深鉢土器です。この土器は八戸市櫛引遺跡で出土しています。
(村木 淳)

(引用写真) 表館 (1) 遺跡Ⅲ 青森県教育委員会 1989

櫛引遺跡 青森県教育委員会 1999

大平山元 I 遺跡 大平山元 I 遺跡調査刊編 蟹田町教育委員会 1999

黄檗遺跡 南郷村教育委員会 2001



大平山元 I 遺跡出土土器



表館 (1) 遺跡出土土器



黄檗遺跡出土土器



櫛引遺跡出土土器

カモシカ班 出動

カモシカは、例年、4月中旬から9月下旬にかけて、山から里におりてきて人に目撃される場合があります。

なぜニホンカモシカが、国の特別天然記念物なのかは分かりませんが、文化課には、天然記念物の保護という業務もあります。そのため、カモシカの出現により、その保護という業務がまたひとつ増えることとなります。4月のなかばをすぎたあたりから、「カモシカ」という言葉に敏感に反応する文化課職員が何人かいますが、私も、そのうちの一人です。

例えば、カモシカ目撃の情報が一般市民からよせられたとします。

「今は姿が見えないけれど、さっきまでこの辺にいて、別の方へ逃げた」などという場合は、まず、カモシカに出会うことは無いだろうなどとたかをくくってわりと気楽に現地に出動します。

「車にはねられて死んでいるカモシカがいる」などという場合もかえって気楽に対応できます。カモシカの死体をペット斎場に運ぶだけです。ただし、死体の腐敗が進んでいる場合はとてもキツイ異臭を放つのが厄介です。ペット斎場の火葬場で焼かれる前には、ただひたすら成仏するのを祈ります。困るのが、「けがをして動けなくなって、逃げることのできないカモシカ」の対応です。

本来、けがをしたカモシカは、平内町にある県の施設に搬送することになっています。しかし、実際は、なんとか動けて、今後も生存できそうなカモシカは、捕まえてワゴン車で秘密の場所へつれていき逃がすのですが、おとなしくしているわけではありませので、車での輸送が大変です。

一番大変なのが、カモシカが人通りの多い場所に迷い込んで、人に危害を加えそうな時です。図書館近くの民家に、朝の通勤、通学時間帯に迷い込んだときには、文化課職員だけでは対応できず、体格のいい警官数名の力で、なんとかカモシカを捕獲したときは、「さすが警察官」と感心しましたが、このとき、カモシカを捕まえるための「カモシカ網」を、私が担当になってから、はじめて使用しました。これからは、網の手入れも怠らないようにしたいと思います。このときは、たまたまカモシカを追い詰めて捕まえることができましたが、人の何倍もの速さで走り、何倍もの跳躍力をもつ元気いっぱいのカモシカを捕らえることは、まず不可能です。

最後に、いつも願っていることを、書き記して、終わりといたします。最近、犬の言葉を翻訳する機器ができたようですが、カモシカの言葉を翻訳する機器を、誰か、発明してください。



文化課 カモシカ班 主事 気田 一彦



遺跡配置図